安 全 デ ー タ シ ー ト

安息香酸

連絡先:
会社名　日本ニュートリション株式会社
住所　　東京都港区南青山一丁目 1 番 1 号　新青山ビル西館 22 階
電話番号:　03-5771-7890　　FAX 番号:　03-5771-7894
緊急連絡先:　03-5771-7890
作成年月日:2025 年 10 月 30 日

1. 化学品名及び会社情報

化学品の名称	安息香酸
供給者の会社名称	日本ニュートリション株式会社
住所及び電話番号	東京都港区南青山一丁目 1 番 1 号 TEL:03-5771-7890
用途	飼料または飼料添加物
使用上の注意	なし

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類	分類できない
	可燃性ガス	分類できない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	分類できない
	高圧ガス	分類できない
	引火性液体	分類できない
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	分類できない

	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類できない
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 2(上気道)
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性　短期（急性）	区分 3
	水生環境有害性　長期（慢性）	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示または
シンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報

重篤な眼の損傷

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

長期にわたる、又は反復ばく露による上気道の障害のおそれ

水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
【応急措置】
眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師の診断／手当てを受けること。
直ちに医師に連絡すること。
気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。
【保管】
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。
環境中に放出しないこと

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	安息香酸
慣用名又は別名	ベンゼンカルボン酸 (Benzenecarboxylic acid) ドラシル酸(Dracylic acid)
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS No. 65-85-0
成分及び濃度又は濃度範囲	99.5%
官報公示整理番号	(3)-1397（化審法）

4. 応急措置

吸入した場合	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて 容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

	眼の刺激が続く場合： 医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	気分が悪い時は医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状	情報なし
最も重要な兆候及び症状	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	加熱されると分解して、腐食性及び/ 又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	適切な空気呼吸器、防護服（ 耐熱性） を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 全ての着火源を取り除く。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	回収・中和：漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。 封じ込め及び浄化方法・機材：水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 二次災害の防止策：プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	技術的対策：特別に技術的対策は必要としない。 局所排気・全体換気：『８．ばく露防止及び保護措置』

	に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱注意事項	取扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 適切な個人用保護具を使用すること。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。。
接触回避	情報なし
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	直射日光を避け、 換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。
安全な容器包装材料	ポリプロピレン, ポリエチレン

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）	ACGIH TWA: 0.5 mg/m3 inhalable fraction and vapor Skin
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には,適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること
特別な注意事項	データなし

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体
色	白色
臭い	無臭またはわずかにベンズアルデヒド臭

融点／凝固点	122.4℃：SIDS(2004)
沸点又は初留点及び沸点範囲	249.2℃（1013 hPa）：SIDS(2004)
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	121℃（密閉式）：ICSC(1999)
自然発火点	574 ℃（1013 hPa）: SIDS(2004)
分解温度	データなし
pH	pH = 2.8 (飽和水溶液 25 ℃) : HSDB(2013)
動粘性率	データなし
溶解度	水：2.931 g/l at 20 ℃：SIDS(2004)
n-オクタノール／水分配係数（log 値）	log Pow = 1.88（測定値）：SIDS(2004)
蒸気圧	0.0011 hPa （20℃：測定値）：SIDS(2004)
密度及び／又は相対密度	1.2659 at 15 ℃/4 ℃：HSDB(2013)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	高温と直射日光, 湿気
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	370℃以上で分解し、ベンゼン、フェノール、二酸化炭素、一酸化炭素を生成する。

11. 有害性情報

急性毒性

経口	ラットの LD50 値として、1,700 mg/kg (環境省リスク評価第 7 巻：暫定的有害性評価シート (2009)、SIDS (2004))、2,530 mg/kg、2,565 mg/kg (SIDS (2004))、2,700mg/kg (JECFA FAS5(1974))、3,040 mg/kg (SIDS

	(2004)、CICAD 26 (2005)) の報告がある。該当数の多い区分外とした。
経皮	ウサギのLD50値として、> 2,000 mg/kg、> 5,000 mg/kg (SIDS(2004))、> 10,000 mg/kg (SIDS (2004)、CICAD 26 (2005))の報告に基づき、区分外とした。
吸入：ガス	GHS の定義における固体である。
吸入：蒸気	GHS の定義における固体である。
吸入（粉じん・ミスト）	ラットの 4 時吸入ばく露におけるLC50 値 > 12.2 mg/L (SIDS(2004)) に基づき区分外とした。なお、LC50 値は飽和蒸気圧濃度(0.005 mg/L) 以上であり、試験は粉じんで行われたとの記載に基づき、mg/L を単位とする基準値を適用した。
皮膚腐食性／刺激性	SIDS (2004) には、テストガイドラインに準拠した試験で「軽度の刺激性」又は「刺激性なし」と報告されている。一方、エタノール又はクリームに 0.05%含有する本物質を用いたパッチテストで、614 人中 18 人で刺激性がみられたとする報告やワセリンに 0.5%含有する本物質を用いたパッチテストで、32 人中 7 人で蕁麻疹がみられたとの報告があるため、分類できないとした
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	SIDS (2004) において、テストガイドラインに準拠した試験で「重度の刺激性」又は「腐食性」と報告されていることから、区分 1 とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性 データ不足のため分類できない。 皮膚感作性 SIDS (2004) には、テストガイドラインに準拠した試験で「感作性なしとするデータが多数報告されている。一方、ヒトへの影響としては、ワセリンに 0.5%含有する本物質を用いたパッチテストで、32 人中 7 人で蕁麻疹がみられたとの報告 (SIDS (2004))、皮膚科の患者 2,045 人に、5%濃度の本物質 Na 塩でパッチテストを行った結果、陽性反応のみられたのは 5 人 (0.2%) のみであったとする報告や、化粧品に対してアレルギーや刺激症状があると考えられる患者 5,202 人に本物質でパッチテストを行った結果、34 人(0.7%) で陽性反応が

	みられたとする報告など、感作性ありとする報告が多数ある（環境省リスク評価第 7 巻：暫定的有害性評価シート（2009））。しかし、SIDS（2004）では、健康なヒトでは感作は起こり難いと結論していることから、分類できないとした
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。すなわち、本物質に関する invivo データはなく、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である（SIDS（2004）、CICAD 26（2000）、JECFA FAS 48（2002））。ただし、SIDS(2004）では、本物質及びその関連物質である安息香酸ナトリウム、安息香酸カリウム、ベンジルアルコールを含め、突然変異性及び染色体異常誘発性はないと記載している
発がん性	本物質は、EPA でグループ D（IRIS（1991））のため、分類できないとした。
生殖毒性	ラットを用いた経口経路（混餌）での 4 世代生殖毒性試験において生殖・発生毒性はみられていない（SIDS（2004）、CICAD 26(2000)、環境省リスク評価第 7 巻：暫定的有害性評価シート(2009)、HSDB（Access on September 2013））。また、発生毒性に関しては、ラットを用いた経口経路（強制）での発生毒性試験において胚吸収の増加がみられた（HSDB（Access onSeptember 2013））との報告と発生毒性はみられていない（SIDS(2004)、CICAD 26（2000）、環境省リスク評価第 7 巻：暫定的有害性評価シート（2009）との報告、ハムスターを用いた経口経路(強制）での発生毒性試験において胚吸収の増加と奇形の増加がみられている（HSDB（Access on September 2013）との報告がある。発生毒性がみられたとの報告がリスト 2 の情報源からのみであることから、区分 2 とした。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	データ不足のため分類できない。なお、ラットの経口投与においてガイダンス区分 2 の用量（1,984 mg/kg）で体重増加に影響は見られなかったとの記載がある(SIDS（2004））。CICAD 26（2000)にはラットの経口経路（投与量不明）において下痢、筋力低下、振戦、自発運動の亢進、衰弱がみられたとの記載がある。またラッ

	トの吸入ばく露（粉じん）においてはガイダンスの範囲外の濃度(12.2 mg/L）において一時的な自発運動の亢進や流涎がみられたが、後に回復した（SIDS (2004)）との記載がある。ウサギの経皮ばく露においては LD50 > 2,000 mg/kg とあるが明確な毒性症状について記載がない。以上の結果から、区分の判断に足る所見がないことからデータ不足のため分類できないとした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	ラットの経口ばく露及びウサギの経皮ばく露では区分 2 のガイダンス値を上回る用量においても毒性所見は見られていない（SIDS(2004)、CICAD 26 (2000)、IUCLID (2000))。一方、ラットに本物質エアロゾルを 4 週間吸入ばく露した試験では、区分 2 のガイダンス値の範囲内（ガイダンス値換算濃度 : 0.078 mg/L）の濃度で上気道の炎症、腎臓重量の減少が見られている(SIDS (2004)、CICAD 26 (2000)、IUCLID (2000)、HSDB (Access onOctober 2013)) が、腎臓は病理組織変化を伴っておらず、標的臓器とするには不十分であると判断した。以上の結果から、区分 2(上気道）とした
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類/水生植物 EC50:Anabaena inaequalis 5 mg/L 3 h 甲殻類 EC50:Daphnia magna 300 mg/L 24 h EC50:Daphnia magna 860 mg/L 48 h
水生環境有害性 長期（慢性）	魚 LC50：Bluegills 44.6 mg/L 96 h
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物），当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で，かつ，環境上望ましい廃棄，又はリサイクルに関する情報	残余廃棄物：廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 汚染容器及び包装：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号	非該当
品名（国連輸送名）	-
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	-
容器等級	-
海洋汚染物質	-
国内規制がある場合の規制情報	-
その他（一般的）注意	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物（法第 57 条、施行令第 18 条別表第 9） 名称等を通知すべき危険有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9） 皮膚等障害化学物質等(規則　第 594 条の 2 第 1 項)

16. その他の情報	この安全データシートは、いくつかの安全データシートの情報を参考にして、日本ニュートリション株式会社が作成したものです。全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、別途、

資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取り扱いを想定しており、特殊な取り扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

＜引用文献＞

- 厚生労働省 職場の安全サイト：モデル SDS「安息香酸」2014 年 3 月 31 日改訂版
- NITE: 独立行政法人　製品評価技術基盤機構
  http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html
- IATA 危険物規則書
- RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
- 中央労働災害防止協会 GHS モデル SDS 情報
- 有機合成化学辞典(社) 有機合成化学協会講談社サイエンティフィック
- 化学大辞典　共立出版
  その他、各データごとに記載

＜改訂履歴＞

版	日付	内容
初版	2024 年 12 月 1 日	—
2 版	2025 年 10 月 30 日	「16.その他の情報」の修正